

平成 29 年度 第 5 回郡上市地域公共交通会議(会議要録)

○会議名称 平成 29 年度第 5 回郡上市地域公共交通会議

○開催日時 平成 30 年 1 月 16 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分

○開催場所 郡上市総合文化センター 4 階 第 2 大会議室

○協議事項

議題第 1 号 郡上市地域公共交通網形成計画書 (案) について

議題第 2 号 平成 29 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

○出席委員 日置市長 (会長)、尾藤安正、平岩憲政、武藤尚樹、大西春子、畑中知昭、出井建雄、馬淵公子、古田米弘、西脇 洋恵、佐野みゆき、廣中健太、宮内菊次、伊豆原浩二、池田喜八郎、佐々木綱行
清水秀樹 (代理)、宇佐美有紗 (代理)、森 隆行 (代理)、村瀬満記 (代理)、上田剛也 (代理)
計 21 名

○欠席委員 山田芳喜、長尾 実、高田太豊、古川昭文 4 名

○出席者 (事務局：市長公室企画課)
室長 三島哲也、企画課長 河合保隆、交通担当係長 和田隆男、主査 酒井義文

1. 開会 (司会進行：企画課長)

2. あいさつ
・日置市長

◆議長(会長：市長) 議事進行

3. 協議事項

議題第 1 号 郡上市地域公共交通網形成計画書 (案) について

(説明者：企画課 酒井主査) 資料 1

* 質疑応答

議長 事務局より説明があった資料 (計画案) の前半部分についてご意見をいただきたい。

委員 資料の 13 ページにある 1 人当たりの運行経費はどのような計算を行っているのか。路線ごとに比較すると大きなバラつきがあるが。

事務局 算出方法は、路線ごとの運行経費を延べ利用人数で割ったものである。路線ごとにバラつきがあるのは、運行距離の違いによる経費の差もあるが、和良巡回バスのように、高齢化等により利用人数が減少してきていることも大きな要因となっている。逆に、まめバスは自主運行バスの中でも運行経費は高いが、観光利用も含め、延べ利用人数が多いため、一人あたりに換算すると 325 円と

いう金額となる。小那比ジャンボタクシーは、デマンドタクシーという運行形態となるが、ここ数年、小那比地域の高齢化等により利用人数が極端に減っており、現在バスよりも1人当たりの運行経費が高い状態となっている。分母である利用人数が増えなければ、バスであれ、デマンドタクシーであれ、1人当たりの運行経費は高くなってしまう。

委員 小那比ジャンボタクシーの運行を行っているが、1回の運行距離は約20kmであり、まめバスなどと比べると経費的には高くなる。経費だけで判断しないで、それぞれの実情を踏まえる必要がある。

委員 バスの車両は路線によってバラバラだと思うが、大型車と小型車では当然経費が違い、その点を踏まえて、車両の小型化を図らないと、逆に損になることがあると思われる。現状の経費をきちっと計算した上で、事業を実施していただきたい。

事務局 資料にあるグラフの基となる積算データがあるので、事業を実施するときはよく分析をして行いたい。

議長 1人当たりの運行経費で、高い数値となっている路線は、比較的路線延長が長いところが多いのか。例えば、人・回・km当り何円という算出にすれば良いのではないか。

事務局 今回、計画の目標値にも設定している「1人当たりの運行経費の水準」だが、5年後も現在とそれほど運行条件は変わっていないと考え、この水準を保つということでいきたい。また、このグラフをみて、どの路線も目標値の1,000円に近づけなければならないというものではなく、それぞれの路線ごとに違いがあるのは当然で、あくまでも全体の平均で考えていただきたい。

委員 このグラフは少し怖いところがある。計画書が表に出た時、うちの路線は経費がかかっていると、マイナスに考えるところも出てくると思われるので、もう少しグラフを均一化したものにし、客観的に見ても大丈夫なものにしてはどうか。このグラフが独り歩きすることを心配する。

議長 事務局で注釈を追加して、例えば、それぞれの路線の運行距離は加味していない旨や、スクールバスとの混乗路線で経費が安価になっている旨などをわかるようにしていただきたい。

事務局 グラフの下に注釈を補足する。

委員 運賃収入は経費から差し引いているのか。

事務局 運賃収入は差し引いていない。路線に係った運行経費である。

議長 次に計画の後半部分も含めて全体としてなにかご意見はないか。

資料10ページの長良川鉄道の公費負担のグラフに注文として、バスと違い運行経費以外に、設備整備費が公費負担に含まれている点を追記していただきたい。鉄道運営の部分でこれだけ赤字と思われるといけないので。

委員 計画の取り組みの中に「観光需要の取り込み」とあるが、市内の企業で外国人を雇用しているところがあり、外国人従業員はスキー場なども利用されると聞いた。そういった外国人の実態も調べていただき、公共交通に取り込んでいただきたい。長良川鉄道もそういった企業に上手に宣伝し、掘り起こしてほしい。日本語があまりしゃべれないので、どのような交通手段があるのかわかっていないのが現状のようである。外国人従業員たちも雪遊びをしたいのだけれど、会社は連れて行ってくれないとのことであった。彼らが公共交通を利用し、観光地へ行ければ、地域の観光事業者にとっても良い効果が出てくる。

議長 それは鉄道とスキー場が連携して営業するということか。

- 委員 冬だけでなく、夏の観光も含めて長良川鉄道を活かす事業をお願いしたい。
- 委員 長良川鉄道ですが、今までそういった取り組みをしてこなかったため、今回色々とヒントをいただいたので検討していきたい。
- 委員 市と長良川鉄道が連携して、内ではなく、外に対してアピールしていただきたい。
- 委員 前回も長良川鉄道のシルバー会員制度の話聞いたが、大変ありがたい制度と思っており、友達などにも進めている。その中で、長鉄を利用したことが無い人が多いことに驚いている。長良川鉄道は乗ってみると非常に中からの景色もきれいで、車とは違った楽しみ方がある。是非もっとシルバー会員制度を宣伝していただき、長良川鉄道の利用者を増やしていただきたい。また、郡上八幡駅のベンチが非常に老朽化しており、座るのも気が引けるほどなので、もう少しきれいなベンチに取り換えていただきたい。一か所、板が割れているところもあり、子供が遊んでいて危なく感じた。今年せつかく郡上八幡駅を改修したのだから、駅に人が集まるようなイベントとかを行っていただきたい。
- 委員 年寄りも外へ出ていくことが好きなので、みんなで集まって、長良川鉄道に乗ろうとなればたくさん利用すると思う。ただ長良川鉄道を使用して何をするかという用事を作っただけだと私たちも呼びかけやすい。以前、美濃加茂のホテルとタイアップしたランチプランがあった。そういったものをシルバーなどの団体に投げかけてほしい。
- 委員 郡上から美濃加茂へ行くというプランも良いが、外からの需要を取り込むために、郡上へ来てもらうプランも考えていただければ利用者も増えると思う。
- 議長 ご指摘に点は長良川鉄道で検討する。また、シルバー会員制度のPRも積極的に行っていく。
- 委員 私どもはNPOで高齢者の送迎活動を行っている。こういった取り組みは計画の中のどの部分に入ってくるのか。
- 事務局 資料26ページの「地域の実情に合わせた運行形態の見直し」と、27ページの「交通空白地の解消」の部分になる。交通空白地の考え方として、交通不便地域の解消も含まれている。
- 議長 他にご意見が無ければ、今回ご指摘いただいた点について事務局で修正していただき、それでブリックコメントを求めるといふことよろしいか。最終的には3月の交通会議で承認を踏ることとする。ご異議ないか。

(全員) 異議なし

議題第2号 平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

(説明者：企画課 酒井主査) 資料2

* 質疑応答

- 委員 資料(事業評価)の中に「将来免許証を返納したら公共交通を利用する割合66.4%」があるが、これは地域によってばらつきがあると思うので、取り組む中で、市域で一律として取り組むのではなく、限界集落など地域の実情に合わせて行っていただきたい。地域ごとに実情は大変違うため。
- 事務局 計画の実施は地域単位で考えている。今回は事業評価用の資料として、全体の数字を挙げさせて

いただいた。

委員 岐阜運輸支局ですが、今回事業評価の資料を作成していただいたが、本来であれば補助金の部分だけでいいのだが、このような形で全体の中で表す形となった。国庫補助の申請もこの公共交通会議の名前で行っているので、事業評価の内容をこのような形で皆さんに審議していただいている。

一つお願いがあり、事業評価の目標値の中で、「利用人数」や「1人当たりの運行経費」があるが、これは郡上市全体の数値であり、この下には各地域の数値を積み上げたものがあるはずなので、地域ごとの目標を持って取り組んでいただきたい。

事務局 当然、目標値を出すまでの詳細な積算データはあるので、それに基づいて事業を実施していく。目標値の中で高齢福祉アンケートがあるが、この部分についてはアンケートなので市全体として考えていく。長良川鉄道の利用人数は沿線利用者なので同様となる。

議長 目標値で利用人数は減っているが、1人当たりの運行経費も水準を1,000円とするには、運行経費のどの部分を削減するというものはあるのか。

事務局 路線ごとに経費を計算し、計画の中で取り組む事業効果を加味した上で目標値を算出しているのをご理解いただきたい。

委員 長良川鉄道の利用人数は郡上市だけのものか、沿線全体のものか。

事務局 沿線全体のものである。

委員 私は第三者評価委員なので、細かいことは言いませんが、発表は5分なので、しっかり整理しておいてほしい。また、目標値のところはかなり厳しい指摘を受けることになることを覚悟してほしい。また、フィーダー系補助金で、2年前の指摘に対する取り組み内容が弱い気がするので、もう少し見えるように、具体的に記入をしていただきたい。

事務局 ご指摘の点について、内容修正を行う。

議長 それでは第2号議案について、ご指摘いただいた点を事務局で修正するというので、ご異議ないか。

(全員) 異議なし

議長 本日の議題は以上となる。私の進行はここまでにして事務局に戻す。

事務局 次回の会議は3月19日を予定しているのでよろしくお願いいたします。以上で第5回郡上市地域公共交通会議を終了する。

閉会挨拶 副会長
(閉会)